

2月の前半は私の新型コロナ感染からの回復期、後半は環境変化の準備が重なり、個別フォローが1ヶ月以上空いてしまったの開催になりました。

途中にオフ会もあったため、陽子さんと話すこと自体が久しぶりと言う訳では無かったのですが、釜板立てのテーマにも通じる「そう言えば言っていなかったこと」を沢山話すような会になりました。

年末に初めての個別株に挑戦してから、年明けにはミニ株（単元未満株）で違うジャンルに挑戦し、他のメンバーの釜立てテーマを見てから、米国株にもチャレンジしました。

投資信託自体は3年継続して、その上下の幅やリスクなどには慣れたのですが、個別株を始めてから見えた世界は全く異なるものでした。

自分の選択の影響度がより大きいように感じたのです。

米国株になると為替レートが関わってくるので、尚更迷う要因が増えたように感じました。

陽子さんから「この後の戦略は？」と問われて、違う種類の投資信託を購入したいと思ったことを話しました。

陽子さんと話すうちに、私の選んできた投資信託が、標準的なパターンとは少し外れていたことに気付きましたが、そこもまた自分の趣向であることも気付きました。

また、陽子さんの周りの方の投資スタイルの話を聞いてみると、「カバンの中紹介」のように、やはり個人の趣向や価値観が反映されているものだと思います。

また、こんな風に投資の話をフラットに話し合える関係性はとても貴重だと思うので、今の10プロでの関係性は、その意味でもとても貴重だと改めて実感できました。

また、まもなく移住する都市部について、希望の中に恐さも混じっていることも話すことが出来ました。

メリットが沢山あると理解しながらも、いざ自分がそのど真ん中に行くと思うとデメリットを思い浮かべてしまうのです。

でも、それが現状維持バイアスだと理解しているからこそ、前に進む道を選んで、その姿を1つの事例として10プロメンバーにも示していきたいと思いました。

(A.S 40代女性 北海道)